

細菌性赤痢 (三類感染症)



細菌性赤痢とは

- 赤痢菌 (*Shigella*)の感染によって起こる感染症です。
- *Shigella*属は性状により4種 (*S.dysenteriae*, *S.flexneri*, *S.boydii*, *S.sonnei*) の亜群に分けられます。
(国内発生例で最も多いのは*S.sonnei*)
- 主な感染源はヒトで、患者や保菌者の糞便に汚染された手指、食品、水等を介して、直接あるいは間接的に経口感染します。
- 少量の菌数で感染が成立し、二次感染を起こしやすいです。
- 潜伏期間は1~5日、主な症状は下痢・発熱・腹痛で、しばしばしづり腹を伴う膿粘血便がみられます (赤痢症状)。
- 主にアジア地域からの輸入例 (海外旅行など) が半数以上を占めていますが、輸入食品による食中毒事例や保育園等での集団発生事例もみられます。

福岡市での細菌性赤痢の発生状況 (集団事例)

平成20年度：市内の飲食店でベトナム産冷凍イカを推定食品とする
集団食中毒事例 →原因菌：S.sonnei 感染者38名

平成22年度：市内の幼稚園で発生した集団感染事例 (原因不明)
→原因菌：S.sonnei 感染者12名 (園児8名、家族4名)

福岡市での大規模発生事例 (平成20年度)

福岡市内の3カ所の施設で
同一の輸入冷凍海産物を
介した細菌性赤痢が発生！



分離された赤痢菌の
遺伝子解析

